

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 ICT 活用研究会

テーマ ICT を活用した授業改善と評価方法の研究

取組のポイント・成果

1. 活動の目的

- (1) 各教科の特性を生かしたICTの活用方法を考え、研修等において校内へ発信すること。
- (2) 新学習指導要領に向けた授業改善を進めていくこと。
- (3) 新しい学びの評価軸を踏まえて、評価方法のひとつであるルーブリックを学習すること。

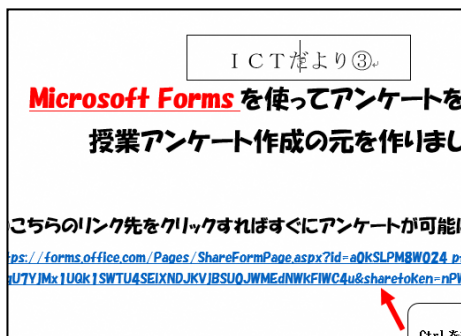
2. 具体的な取組とポイント・成果

(1) 校内でのICTの推進

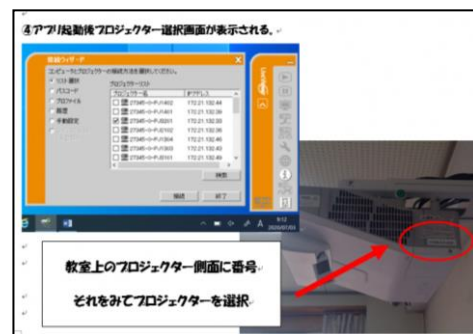
校内でのICT普及のため、ICT活用に関わる情報発信を行った。

本校の状況に合わせた①オンライン授業 ②Forms の活用方法 ③授業やHRでの具体的な活用の3点を中心に通信を発行した。

成果としてサーフェスの無線での接続やFormsの使用率が増加した。



【Forms について】



【プロジェクターとサーフェスの無線での接続について】

(2) 授業改善1 (メタモジの研究)

今年度から導入されたメタモジの使用について、各教科の活用方法を検討した。メタモジの研修を視聴し、研修内容を共有したり、教科に応じた有効な活用方法について検討を重ねた。メタモジを活用することで、思考の過程を可視化させ、仲間の考え方を共有できることがわかり、教科：数学において授業実践を行った。

また、恵那高校の訪問の際には、以前から先進的にメタモジを活用されている伊藤英紀先生の話をつき、より具体的な活用方法について深めることができた。



【メタモジを使った授業】

(3) 授業改善2 (動画編集とその活用)

教科：家庭における、実習や参考資料の作成とその活用

- ・砂糖水を加熱後、キャラメルができる様子をコマ送り動画で編集
- ・卵の熱凝固性を確かめる動画を編集
- ・一連の実習の流れを動画で編集

科目：家庭総合において、準備→実験→結果→まとめまで、約 50 分を要する学習内容であるが、動画を視聴することで、ポイントを押さえながら学習することや、繰り返し視聴することで、学習内容の定着が図れる。

- ・並縫い、まつり縫い、半返し、たてまつり縫い、ボタン付けなど基本的な縫い方を動画で編集
- ・ミシンの上糸かけ、下糸巻き、ミシン縫いの方法を動画で編集

科目：ファッション造形基礎において、中学校で被服単元の学習時間が減少しており、基本的な縫い方や扱い方の定着が不十分な生徒が多い現状を考え、動画を繰り返し視聴することで、生徒個人のレベルに合わせた学習ができる。

(4) 授業改善3 (動画編集とその活用)

教科：福祉における、実習・参考資料の作成とその活用

- ・基礎的な介護技術の方法を動画で編集
ベッドメイキング、移乗・移動の介助、排泄介助（紙おむつ介助）

科目：生活支援技術において、従来クラス全体で授業内に師範していた各介護技術の指導方法の改善を図った。授業内の師範と並行しながら編集動画を視聴することで、一人ひとりが苦手とする部分を確認したり、放課後等の自主練習や、欠席者への補充等に活用できた。

(5) 評価方法 (ルーブリックの理解を深める)

京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 2020 全国スクールリーダー育成研修を全 5 回視聴した。教育評価の基本的な考え方と進め方について、9 月から月 1 回の配信プログラムを視聴した。

- ①2017・2018 年改訂学習指導要領の特徴
- ②目標に準拠した評価の基本的な考え方
- ③パフォーマンス課題の作成
- ④ルーブリックとポートフォリオの活用
- ⑤2019 年度改訂指導要録のポイント

令和 4 年度から新学習指導要領に移行するにあたり、目標に準拠した評価の考え方を再構築する必要性を感じ、パフォーマンス課題とルーブリックに関する各教科における活用を考える場とした。現在の学習指導内容を振り返り、パフォーマンス課題として設定できる部分とその評価方法を見いだすこととした。その一つとして、科目：生活産業基礎では、地域産業とファッションの分野で、題材を貫く課題としてパフォーマンス課題を「尾州産地が抱える課題の理解と、職業人として求められる能力」として設定し、評価はルーブリックを用いて取り組んでいる。

今後の課題

- ・ICTの活用や研究は今後も必須であり、今年度だけの活動にとどまらず、基礎から発展的な研修の参加や、授業見学等の交流を行うことが重要である。
- ・評価方法の一つであるルーブリックを理解する機会となったが、単元を貫く課題や長期的な課題等に対応する長期的ルーブリックの作成を行いたい。